資料１６

令和４年度の災害発生状況について

１　令和４年度に発生した災害について

⑴　災害の概要

令和４年度は、７月及び８月の大雨、また、台風第１１号、第１４号、第１５号に伴う大雨においても全国各地で水害等の被害が発生しました。京都市域においては、台風に伴う被害はなかったものの、７月、８月の大雨では、左京区を中心に被害が発生しました。

表　京都市の主な被害状況

災害	発生時氏	人的被害		建物被害					備考
		重症	軽傷	全壊	半壊	一部破壊	床上浸水	床下浸水	
７月の大雨	7/19	－	4	1	1	3	5	9	・最大時間雨量：88mm（京都地方気象台） ：73.5mm（鹿ケ谷） ・避難情報の発令：20 学区
８月の大雨	8/17～8/18	－	－	－	－	1	8	3	・最大時間雨量：59.5mm（小塩山） ：45mm（聖護院） ・避難情報の発令：5 学区

⑵　京都市の対応

左京区を中心に、山地からの土砂流出により道路等へ土砂が堆積する被害が発生しました。その対応として、関係局区が連携し土砂撤去を行うとともに、京都府を含めた関係機関による調整会議を開催し、課題解決に向けた取組を推進しています。

２　台風第１４号接近に伴う避難情報の早期発令の対応について

気象庁では、台風第１４号は、「これまでの台風に比べるものがないほどの危険な台風」と評価され、京都市への接近が１９日から２０日の深夜と予想されることから、市民の不安や暗くなってからの避難の危険性を考慮して、河川水位の急上昇により短時間で避難情報の発令に至る可能性や、倒木などの避難路の障害により避難行動が困難になる可能性がある３０学区に対して、避難場所の早期開設と対象となる市民７６，０００人へ避難情報の早期発令を行ったほか、パトロール強化、工事現場の安全確保、ポンプの停電対策、ため池管理者への水位低下の依頼などの事前対応を行いました。

台風は、その後、急速に勢力が弱まったため、京都市への大きな影響はありませんでした。

令和4年度の災害発生状況について

1　令和4年7月の大雨による被害

7月15日以降、大陸からのびる前線が日本付近に停滞したため、西日本から北日本の広い範囲で大雨となり、九州や東北地方を中心に大雨となった。

・7月15日～16日　九州と東北地方で大雨となり、九州では24時間降水量が300mmを超える大雨となった。東北太平洋側では24時間降水量が200mmを超える大雨となった。
・7月17日　低気圧の接近に伴い北海道太平洋側で大雨となった。
・7月18日～19日　九州北部地方・中国地方を中心に西日本から東日本にかけて大雨となった。特に18日午後から19日明け方には、九州北部地方で4 つの線状降水帯が発生し、長崎県・福岡県・山口県・熊本県・大分県では24 時間に200 ミリを超える大雨となった。

（全国の被害状況）

被害状況

・人的被害　死者１名
・住家被害　全壊３棟、半壊１９棟、一部破損１１棟
　　床上浸水２６０棟、床下浸水１,３３３棟

河川氾濫等の発生状況

・１１水系２８河川

土砂災害発生状況

・４５件（宮城県１８件、静岡県６件、岩手県３件、
　　広島県３件、鹿児島県３件等）

（京都市域の被害状況）

令和４年７月１８日からの大雨による被害状況

・全壊１棟（非住家）
・半壊１棟（住家）
・一部破損３棟（住家）
・床上浸水５棟（住家１棟、
　　非住家４棟）
・床下浸水９棟（住家）
・道路冠水４箇所

左京区一乗寺染殿町
(溢水した第一疏水分線)

左京区一乗寺松原町
(山地からの土砂流出)

令和4年度の災害発生状況について

2　令和4年8月の大雨による被害

8月にかけて、低気圧に伴う前線が日本列島に長く停滞し、台風から流れ込んだ暖かく湿った空気の影響も加わり、西日本から北日本の広い範囲で大雨となった。

・8月3日～7日　低気圧に伴う前線が東北地方から本州南岸まで南下し、5日にかけて北日本から西日本では断続的な大雨となった。6日から7日にかけて東日本から西日本で大雨となった。
・8月13日　停滞した前線の影響で、北海道地方や東北北部で大雨となった。また伊豆半島に上陸した台風第8号の影響により、東日本太平洋側を中心に大雨となった。
・8月15日～26日　前線や低気圧の影響により、北日本から西日本の広い範囲で大雨となった。

（全国の被害状況）

被害状況

・人的被害　死者２名、行方不明者１名
・住家被害　全壊２６棟、半壊５１８棟、一部破損３０２棟
　　床上浸水１,７１１棟、床下浸水４,１６３棟

河川氾濫等の発生状況

・５１水系１３２河川

土砂災害発生状況

・２０３件（新潟県６１件、岩手県２３件、青森県１８件、
　　長野県１７件、福島県１７件等）

（京都市域の被害状況）

令和４年８月１６日からの大雨による被害状況

・一部破損１棟（住家）
・床上浸水８棟（住家４棟、非住家４棟）
・床下浸水３棟（住家）

左京区北門前町
（下水管へ大雨が流入したことにより行き場失った空気が
マンホールを押し上げ隆起した舗装(仁王門交差点)）

左京区北白川地蔵谷町
（道路(府道下鴨大津線)への土砂流出）

令和4年度の災害発生状況について

３　令和4年台風第14号の大雨による被害

九州を中心に西日本で記録的な大雨や暴風となり、9月15日の降り始めからの総雨量は、九州や四国の複数地点で500ミリを超える大雨となり、大きな被害が発生した。

台風第１４号は「これまでの台風に比べるものがない危険な台風」との評価であり、京都市への最接近が１９日夜遅くから２０日未明と予想されることから、市民の不安や夜間の避難の危険性を考慮して、避難情報の早期発令（高齢者等避難）を実施する事前対応を行った。台風は、その後、急速に勢力が弱まったため、京都市への大きな被害は、発生しなかった。

（国土交通省ＨＰより）

【京都市各局の主な事前対応】

<建設局・上下水道局・産業観光局>

○災害対応職員の体制確保
○被災ポイントの点検、パトロール強化
○施工中の工事現場の安全確保
○土のうなど資機材の点検及び配備
○ポンプの停電対策（可搬式発電機の事前配置）（上下水道局）
○農林業用施設管理者等への注意喚起、ため池管理者への水位低下依頼（産業観光局）

<消防局>

○警防態勢の発令、警戒調査の実施
○避難情報の早期発令を受け、水災警防本部を設置

<行財政局>

○避難情報（高齢者等避難）の早期発令及び区役所による避難場所の早期開設（京都市初の対応。夜間、暴風の状況下での避難行動を回避するため）
○①避難路の障害のため避難行動が困難になる地域、②河川水位の急上昇により短時間で避難情報の発令に至る可能性のある地域を対象に３０学区を避難情報発令地域として、暗くなる前の９月19日午後５時に実施した